（東日本大震災・原子力災害伝承館）

原子力防災を知る機会づくりに関する実践の報告

東日本大震災・原子力災害伝承館　常任研究員　大杉 遥

日常から防災に関心を持つ市民団体が主体となり、原子力災害への備えである「原子力防災」を知ることを目的とした勉強会を開催した。勉強会の実践内容と勉強会の参加者に実施したアンケートの結果について紹介する。原子力防災を知る機会づくりは、市民が原子力分野の情報の取得や課題意識を持つきっかけとなり、さらに防災を自分事に考えることで原子力分野の社会課題への興味・関心の向上や情報発信に発展できる可能性が示唆された。

【背景・目的】

❑原子力防災 → 原子力災害時の避難や防護などの放射線から身を守るための知識

2011年3月 東日本大震災
2024年1月 能登半島地震

大震災と事故の経験 → 重要視、取り組みの見直し
- 原子力災害時の避難計画
- 放射線教育

【課題】
市民への原子力防災教育と放射線教育の未普及・未定着、取り組みに地域差がある

情報を知るための機会づくりが必要

→ 市民主体の勉強会 を開催

【目的】実践を踏まえて、市民向けの原子力防災を知る機会づくりに関する関心事や構成等を検討する。

【方法】勉強会の開催と内容

勉強会は、防災・減災や地域貢献活動に関心のある一般市民の団体が、同団体の勉強会として企画・主催した。参加対象者は、これまで原子力や放射線に関する情報に触れる機会が少なかった。

表1 勉強会の開催概要

開催日	2024年4月27日
開催場所	静岡県静岡市
講師	福井大学附属国際原子力工学研究所 安田仲宏 先生
内容	①講義「放射線の基礎知識」 ②講義「原子力防災」 ③トークセッション（質疑応答も含む）
参加者人数	184名 会場参加：57名 オンライン参加：127名

勉強会の目的
- 情報を知る
- 自分事として考える（判断基準を作る）
- 専門家と出会う

❑無関心層へのアプローチ

事前学習として、放射線と原子力災害・防災に関する情報を盛り込んだオンライン企画を実施した。
→勉強会のテーマに関心を抱くことを狙いとした

表2 事前勉強会の概要

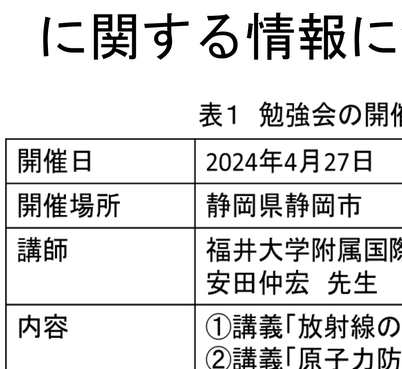
開催日	【第一回】2024年4月17日 【第二回】2024年4月21日
開催方法	オンライン形式
話題提供者	大杉遥 ,主催団体の任意の参加者
内容	【第一回】「放射線について」 放射線の性質と利用について紹介 【第二回】「原子力の災害と防災」 福島第一原子力発電所事故について 当時の避難を経験者から紹介

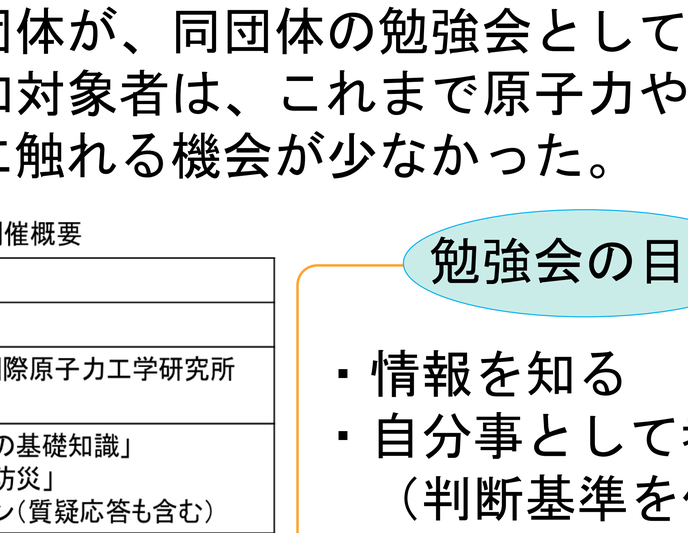
《事前アンケート》
- 原子力防災を知らない → 約7割
- 防災士 → 約2割
- 防災士で原子力防災を知っている → 約2割

【結果と考察】参加者アンケートの結果

❑参加者アンケート　内容：原子力防災を知る機会づくりに関するアンケート
勉強会後にWeb（Googleフォーム）で回答を依頼 回答率：59.8%

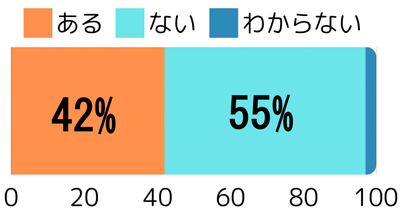
❑年齢と居住地



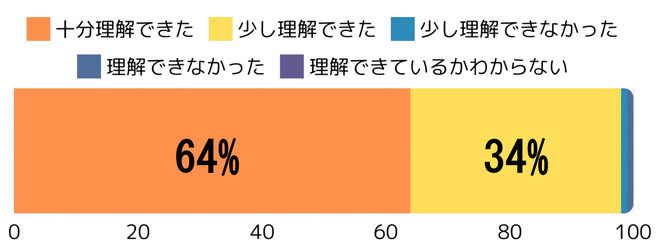


・全国各地から、幅広い年齢層が参加した

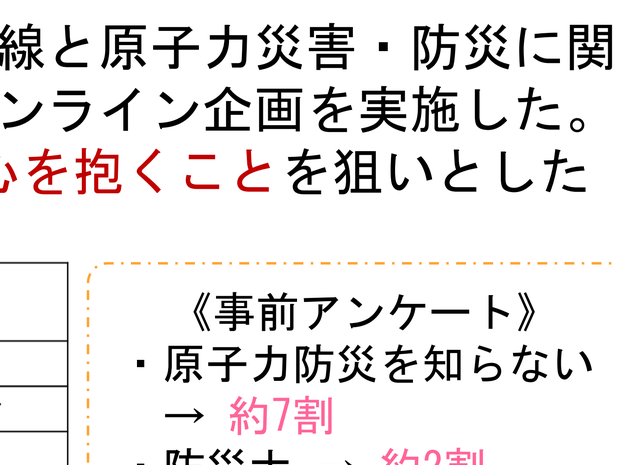
❑過去に原子力災害の避難について考えた事はあるか？



❑勉強会の内容は理解できたか？



❑関心のある話題について
（複数回答可）



《その他》
- 海洋汚染・海外の原発事故
- 人災・メディア・今後の原子力

まとめ・今後の展望

- 原子力防災を知る機会は、市民が原子力防災の情報を取得するきっかけになった。
- 原子力防災の話題から、他の原子力分野の課題に関する話題や情報発信に発展できる可能性が示唆された。
- 専門家等を交えてあらゆる原子力分野の課題解決に取り組むことで協働の機会創出が期待できる。